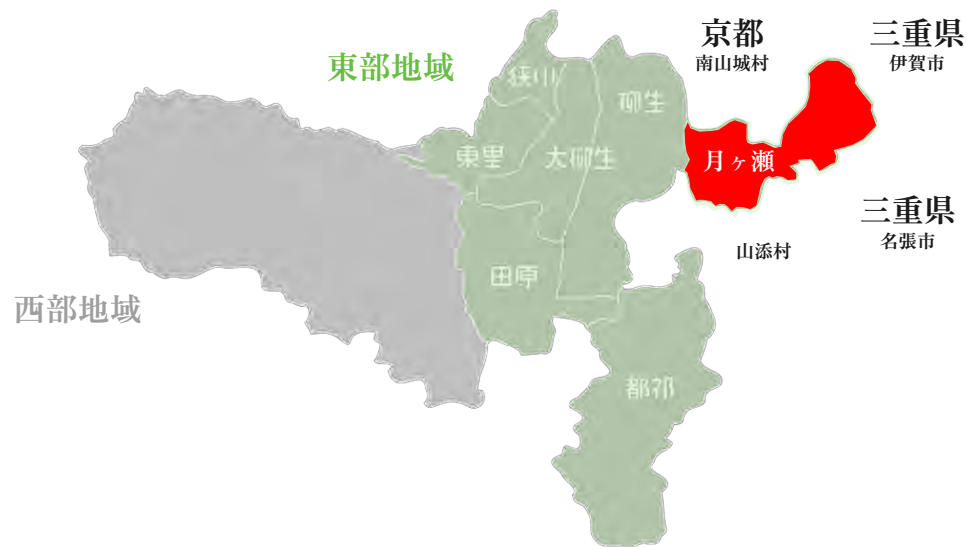


Local Coop大和高原プロジェクト

ー住民自治と住民共助による持続可能な地域づくりー

**旧月ヶ瀬村
(奈良市東部地域)**

地勢



面積 57%

人口 3%

経営耕地面積 64% 農業人口 55%

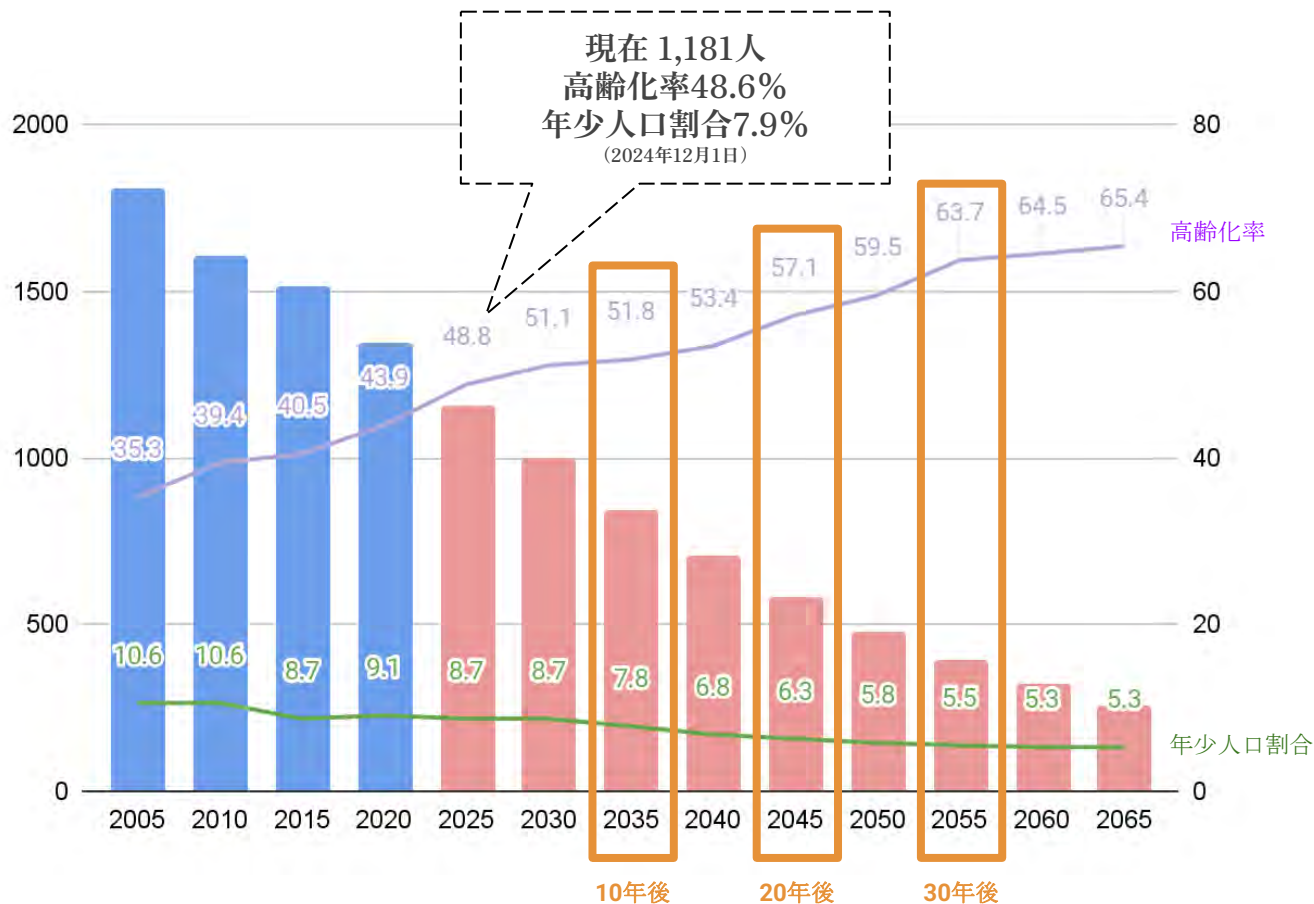
月ヶ瀬の将来推計人口



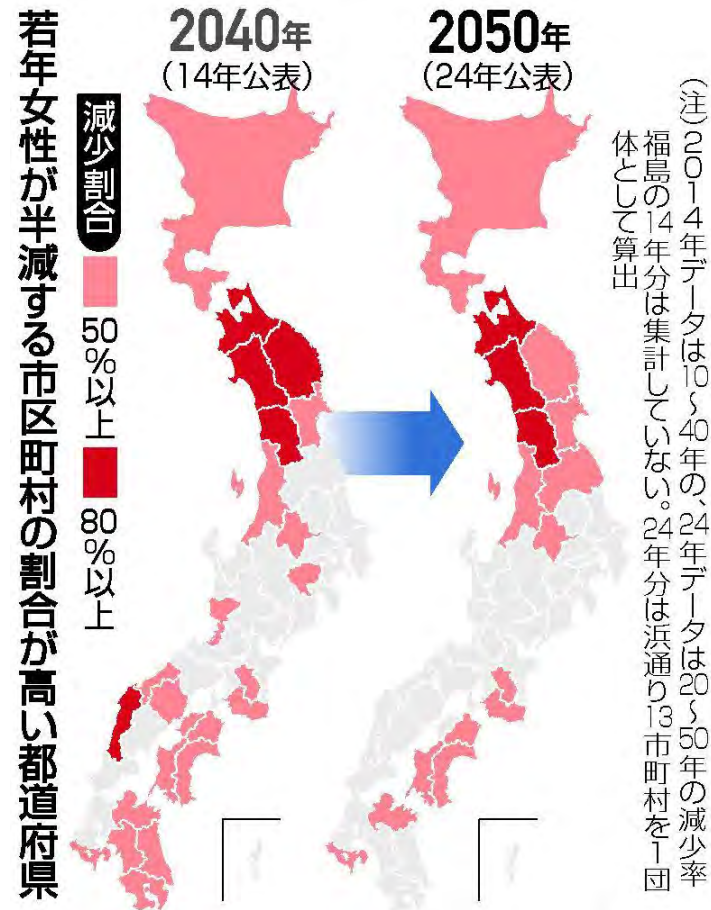
昭和46年 月ヶ瀬小学校新校舎落成



昭和59年 第39回わかくさ国体
(上皇陛下・上皇后陛下)

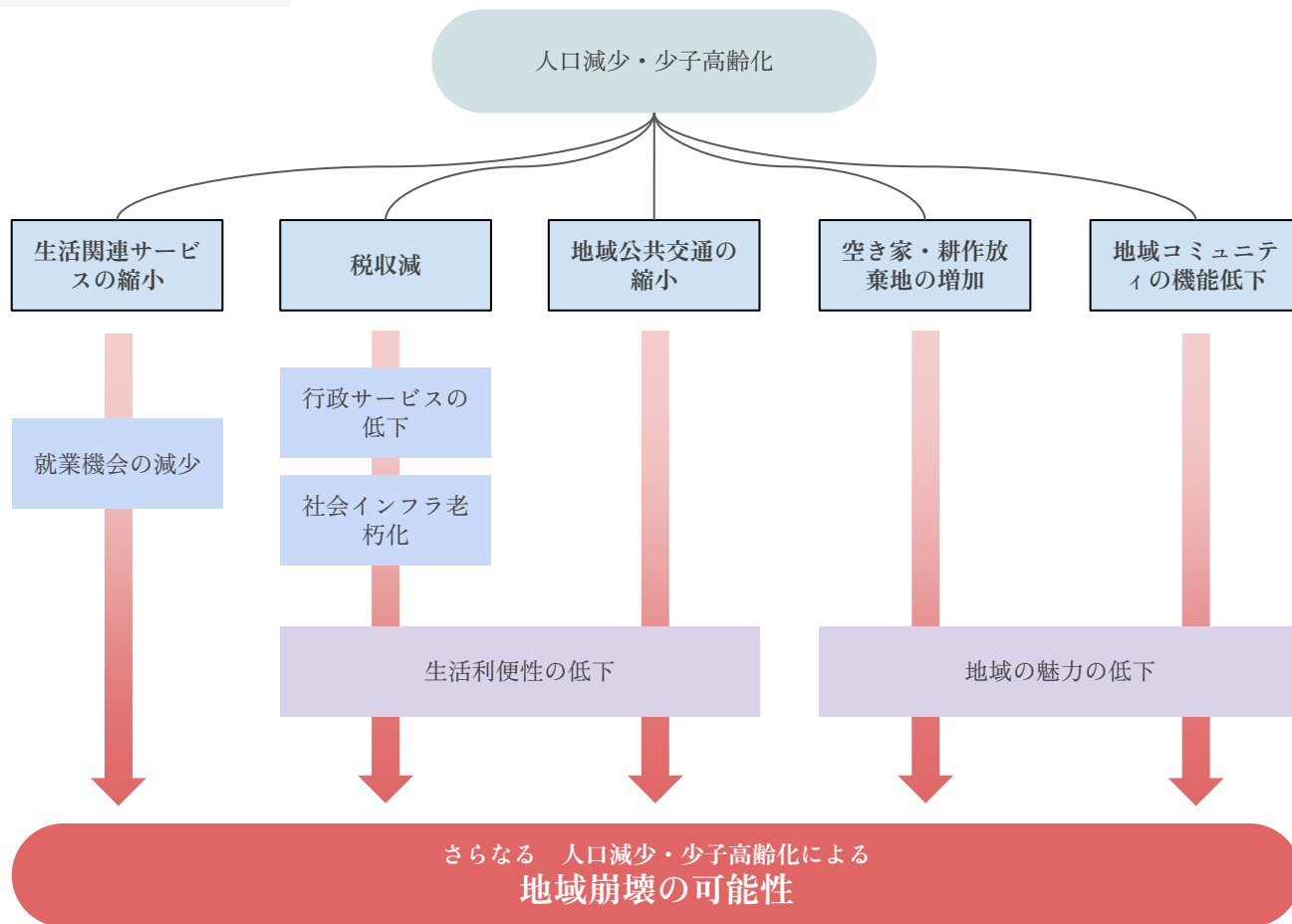


(参考) 日本の人口展望

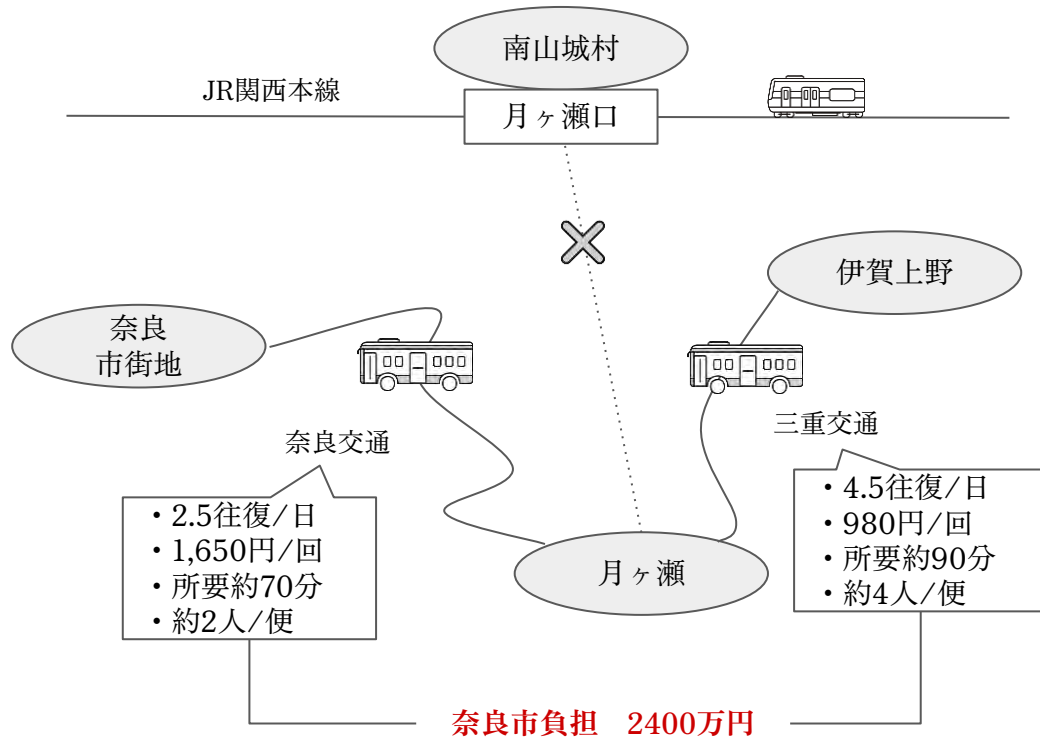


人口動態による影響

地方に与える影響



月ヶ瀬の状況



月ヶ瀬地区の路線バスの運行状況(市からの委託により運行)

月ヶ瀬地区のバスの運行状況

令和4年度市予算:23,476千円

本数は少ないものの、赤字相当額の行政負担により路線バスの運行を維持

奈良交通路線バス運行状況

尾山診療所前→奈良西口行き

時	平日	土日祝日
11時	18分	18分
15時	11分	20分

2便

尾山診療所前→石打行き

時	平日	土日祝日
10時	33分	33分
14時	7分	7分
18時	39分	39分

3便

三重交通路線バス運行状況

尾山診療所前→上野市駅(方面)行き

時	平日	土日祝日
7時	12分	—
8時	7分	7分
9時	42分	42分
12時	42分	42分
14時	57分	—
15時	—	42分
16時	42分	—

上野市駅
行きは
平日5
便、
土日祝日
4便

尾山診療所前→橋本野口行き

時	平日	土日祝日
7時	42分	—
12時	9分	9分
14時	30分	—
15時	—	10分
16時	4分	—
17時	—	29分
18時	14分	—

橋本野口
行きは
平日5
便、
土日祝日
3便

1日2.5往復の運行のみ

柳生地区(邑地中村)から月ヶ瀬地区への運行について、年間約1,100万円の市からの行政負担が発生

令和3年度年間利用者:3,560人
1便平均:約2人

上野市駅~月ヶ瀬地区は 平日4.5往復、土日祝日3.5往復の運行のみ

上野市駅から月ヶ瀬地区への運行について、年間約1,000万円の市からの行政負担が発生(伊賀市もほぼ同額の負担)

令和3年度年間利用者:13,652人
1便平均:約4人

A group of children are seen from behind, standing outdoors with their arms raised high in the air. They are wearing various colored shirts (blue, orange, red, green). The background is a soft-focus view of green trees and a bright sun, creating a warm, hopeful atmosphere. The entire scene is overlaid with a semi-transparent dark rectangle containing white Japanese text.

100年後...

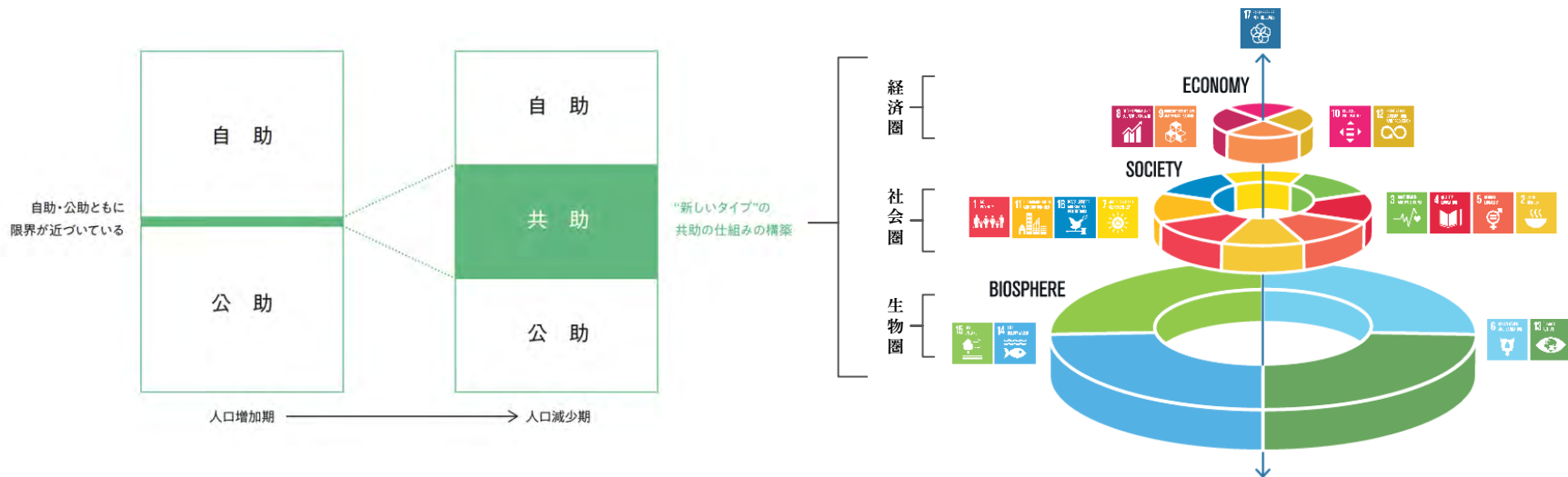
自分たちだけじゃない

”未来の世代”が

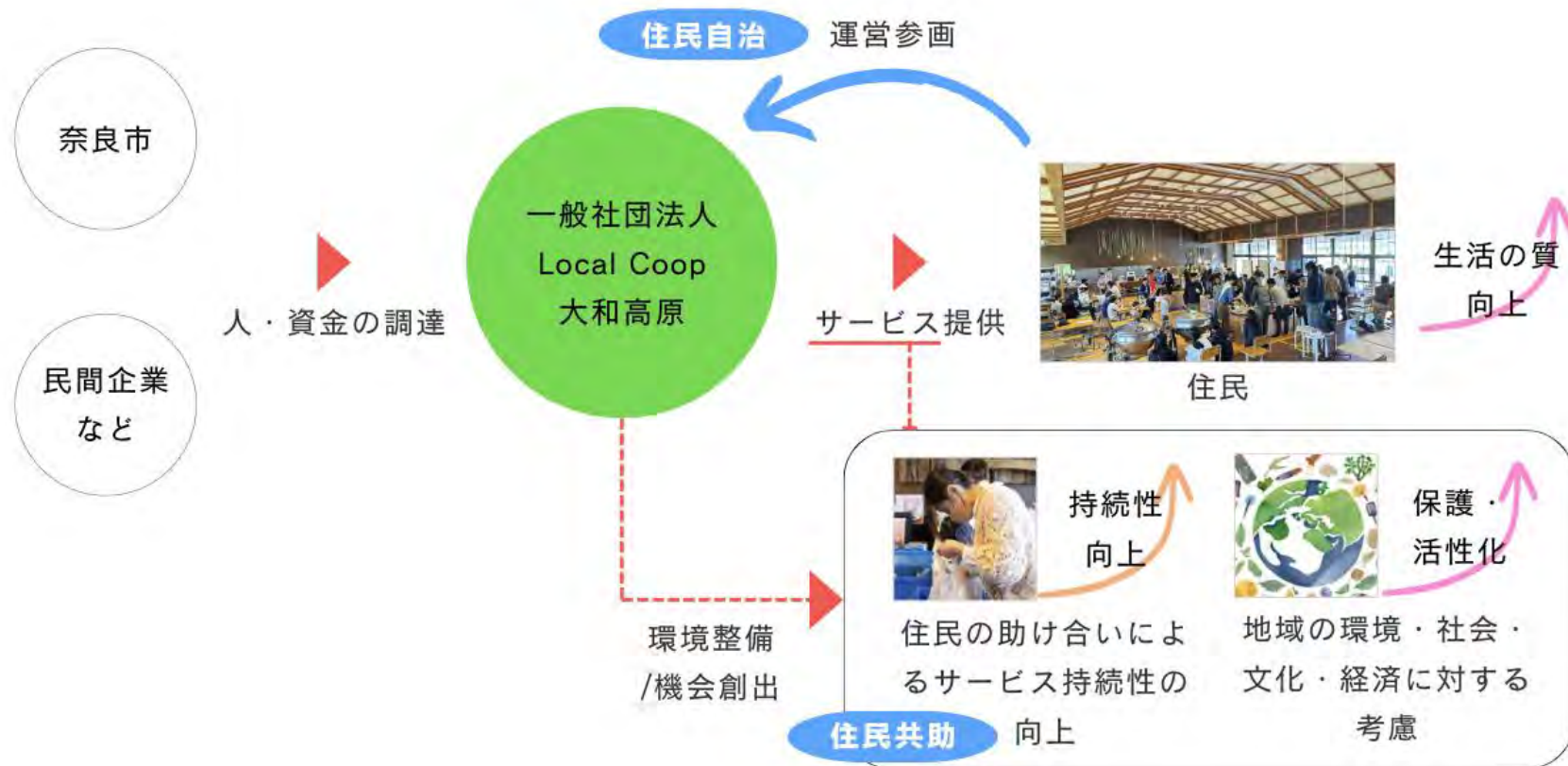
月ヶ瀬に住み続けることができる世界を

Local Coop大和高原プロジェクト

自治の再構築と**共助の仕組みの実装**に取り組み、
地域住民の暮らしやすさ・Well-beingの持続的な向上と
地域の**環境・社会・文化・経済**が維持・発展される
新しい社会基盤を構築すること



プロジェクト推進体制



月ヶ瀬での取り組み

自治・共助による地域運営

行政インフラの移行

月ヶ瀬



地域コミュニティ醸成



自治会館



コミュニティバス運営

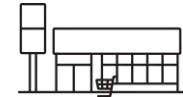


再生资源収集運搬
(MEGURU BOX)



奈良市版自分ごと化会議

おたがいマーケット
(共助型買い物支援)



市街地



大和高原直送便
(地産地消促進)

社会

持続可能な社会基盤構築

ONONO

経済

持続可能なサービス実装

文化

滞在拠点



メタンガス



M-BIO
小型バイオ装置



液肥



生ごみ

循環型社会形成



自然共生社会形成

環境



地域外

月ヶ瀬に関わりたい企業や個人
(関係人口)



農家

自分ごと化会議

地域課題に対して地域住民が理解・共有し、熟議を経て、課題解決を目指す「自分ごと化会議」。この会議は無作為で地域住民から委員が選出され、全4回にわたり開催されます。持続可能な地域社会をつくるために、政治や行政任せずしない「住民自治」及び「住民共助」の意識醸成や行動変容を促します。



行政インフラの移行

コミュニティバス運営

月ヶ瀬行政センター直営で運行していたコミュニティバスを一般社団法人Local Coop大和高原に移行となり、すべての月ヶ瀬住民を対象とした定時循環型コミュニティバス「ぐるぐる月ヶ瀬」に新しく生まれ変わりました。利用料金は無料。

診療所 学校送迎	→	既存機能＋ 各地区の循環
週に1回	→	週に3回



行政インフラの移行



再生資源収集運搬

アミタHD株式会社をパートナーに迎え、共助互助コミュニティ機能をもつ再生資源回収ステーション「MEGURU STATION」を各自治会館に設置。24時間365日の再生資源の搬出を可能とすることで利便性の向上と再生資源の搬出行為を通じた住民の日々のコミュニケーション向上を同時に達成します。回収した再生資源は売却し、売却益を一社LCYの活動資源とすることで域内循環システムを構築します。

また、PP製品の回収新たに追加し、自動車部品にアップサイクルするSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）に参加しています。

36カ所	→	6カ所
決まった 曜日の朝	→	24時間 365日
まとめて 売却	→	地域単位 で売却



行政インフラの移行

自治会館の活用

地域住民が集い、より密なコミュニケーションを取っていただく機会創出を目的に、各自治会館（6箇所）にコミュニティバスの停留所や再生資源収集のためのMEGURU BOXを設置するなど、日常生活に必要な機能を集約することで地域住民が自然と集まる拠点になるよう取り組んでいます。また、地域おこし協力隊を1週間に1日程度、自治会館で地域の困りごと相談や各サービスのサポートを行っています。



持続可能なサービス実装

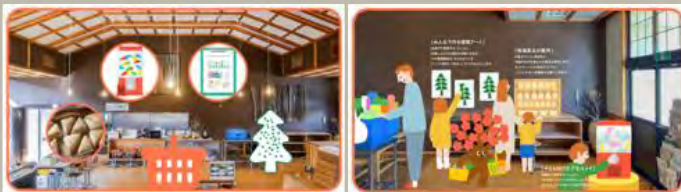
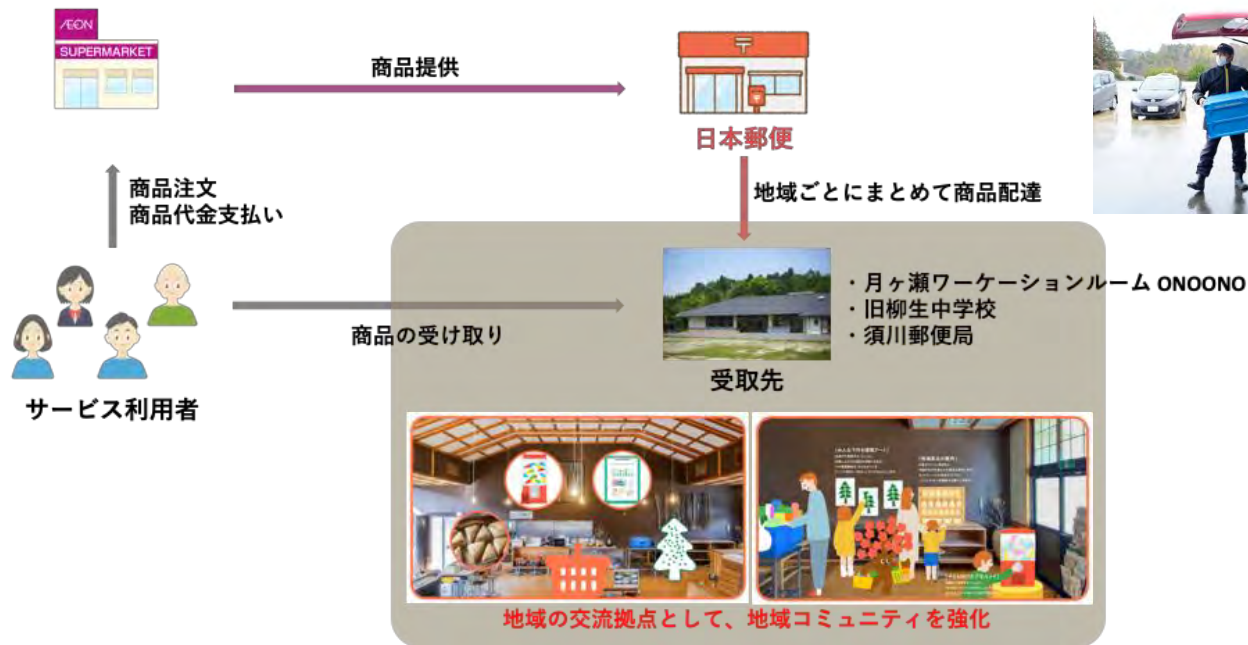


奈良市、日本郵政株式会社・日本郵便株式会社、一般社団法人Next Commons Lab・Sustainable Innovation Lab、イオンリテール株式会社による共助型買物サービスの実証実験に関する合同記者会見

持続可能なサービス実装

おたがいマーケット（共助型買い物サービス）

日本郵便の輸送ネットワークの活用による配送費用の最小限化と共同管理によって実現する全国初の持続可能な買物支援サービス。買い物の利便性向上のほか、配達先での利用者同士の日常的なコミュニケーションを促進し、地域コミュニティの向上を図るとともに、共同配送により環境負荷の低減を実現しています。

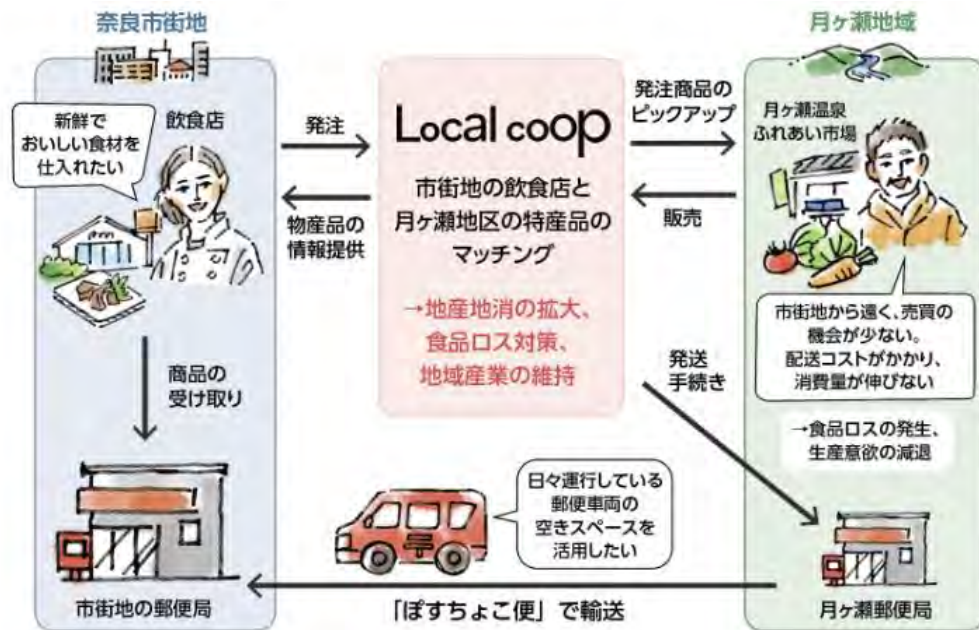


大和高原直送便

日々運行されている郵便車両の空きスペースを活用した安価な地域内配送サービス「ぽすちょこ便」を活用するとともに、一般社団法人Local Coop大和高原が中心となり奈良市街地の飲食店とのマッチングを行うことで、月ヶ瀬地区の特産品を、市街地の飲食店に流通させる持続可能な物流サービス。多くの人に特産品を味わってもらうことで、地産地消の拡大、食品ロス対策、地域産業の維持を目指します。



『菜宴』月ヶ瀬特産品を使った料理
「シイタケのアヒージョ」



受注と特産品ピックアップ



配送される様子









地域内で資源循環！
めぐるびお
MEGURU-BIOから生まれる
液肥を使ってみませんか？



Kitchen

ONONO(旧月ヶ瀬学校給食センター)に設置している
MEGURU-BIO（生ごみ資源化装置）では、
地域の皆さんに持ち寄っていただいた生ごみから、
微生物の力を借りて、バイオガスと液肥を作っています。
液肥は家庭菜園・ガーデニングに使うことができます。



Garden

液肥を使うことで、手軽に誰でも資源循環に貢献でき、
有機栽培をご家庭で実践できます。
サステナブルな暮らしを液肥の利用から始めませんか？



MEGURU-BIO

自然共生社会形成と関係人口創出



坂田昌子
環境NGO慶十の会
代表／一般社団法人
コモンフォレスト
ト・ジャパン理事



土谷 貞雄
株式会社貞雄 代表／
元ムジネット株式
会社取締役



